

中学校運動部活動の効果的指導の取り組みに関する研究

：教員と外部顧問へのインタビュー調査をもとに（Ⅰ）

大矢隆二，田井優子，木宮敬信，黒岩一雄，
柳瀬慶子，百瀬容美子，河合美保，川里 卓

A Research Regarding the Efforts of Effective Instruction in
Junior High School's Club Activities
：Based on Interviews with Faculty and External Advisers（Ⅰ）

Ryuji OYA, Yuko TAI, Takanobu KIMIYA, Kazuo KUROIWA,
Keiko YANASE, Yumiko MOMOSE, Miho KAWAI, Suguru KAWASATO

2018年11月9日受理

抄 録

本研究では、運動部活動の効果的指導に関わる要因の相互関係を明らかにするために、教員および外部顧問に半構造化インタビューを実施した。その結果、3つのカテゴリーおよびそれに含まれる8個のサブカテゴリー、18個の概念が生成された。なお、カテゴリーは、【[A]短時間練習の工夫】【[B]教員と外部顧問のやりとり】【[C]部活動の質的向上】の3つが示された。また、カテゴリーに示された【[A]短時間練習の工夫】を試みることは、【[C]部活動の質的向上】に関連し、また、部活動の質が向上することにより、【[B]教員と外部顧問のやりとり】につながり、その綿密な打ち合わせは更なる【[A]短時間練習の工夫】を導き出すという循環があることが明らかになった。さらに、環境面の課題、練習時間の問題や課題、情報共有のできる人間関係の構築、生徒の意欲の引き出し、保護者との関係など、生徒の成長を支えるため支援や環境整備が重要であることが示唆された。

キーワード：中学校，運動部活動，外部顧問，M-GTA，インタビュー

I 緒言

学校の運動部活動は、スポーツに興味・関心のある同好の生徒が参加し、各運動部の責任者の指導の下、学校教育の一環として行われ、我が国のスポーツ振興を大きく支えてきた（スポーツ庁，2018）。濃密で長い時間を運動やスポーツを通して、集団

で生活をともにすることは彼らの身体的発達のみならず、人格形成の上でも多大な影響を及ぼす（友添，2016.p. 2）ものであり、それ故、学校の教育活動は、子どもの人格形成を目指して営まれるものである（神谷ほか，2015）。2018（平成29）年3月告示された中学校学習指導要領第1章総則において、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」（文部科学省，2018.p.27）と部活動に関する内容が明示された。これは、2008（平成20）年の中学校および2009（平成21）年の高等学校から引き続きの記載である。すなわち、学校で行われる運動部活動では、体力や運動能力の向上とともに、生活習慣の構築やより良い人間関係を構築したりするなど、生徒の成長を担う活動になると言えよう。

しかしながら、専門的な技術指導ができる教員の不足、顧問教員の加重負担および手当の確保、異動にともなう顧問の確保の困難といった多くの問題が指摘されている（友添ほか，2018.p.39）。伝統的に教員が担ってきた部活動であるが、このような現状を踏まえ、文部科学省（2017）は、教育活動に係わる技術的な指導に従事する部活動指導員の導入を決定した。これは、名称および職務等を明らかにすることにより、部活動の指導体制の充実が図られることが意図されている。

それでは、教員と外部指導者の関係ではどのような研究がなされてきたのかを挙げてみる。青柳ほか（2015）は、事例をもとに外部指導者が前に出過ぎない形で指導することでうまくいくことや顧問が主体となった情報共有のできる人間関係の構築を指摘している。また、長澤ほか（2017）は、外部指導者は基本的な技術指導だけでなく、発達の途中である中学生の将来を見据えた指導、生徒と積極的なコミュニケーションに気を配り、生徒の意見を聞いたり理論的な説明を心がけていたことなどを明らかにした。的地ほか（2016）は、競技力志向の部員と娯楽志向の部員双方への対応力や顧問との連携が積極的にとれることなどは、外部指導員にとって必要な資質と指摘した。このように、外部指導者に関する有用な研究報告が複数なされている。しかし、運動部活動をとりまく諸課題を見だし、その詳細については十分に検討されていない。そこで本研究では、半構造化インタビューをもとに、部活動をとりまく諸課題の中で

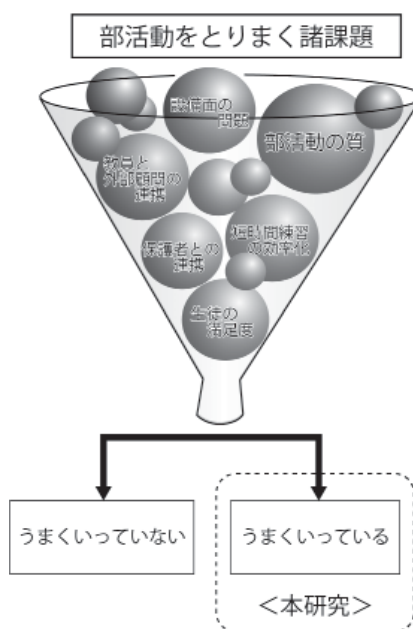


図1 本研究の展開

「うまくいっている」事例に着目し、その抽出概念から効果的指導に関わるカテゴリーの生成をもとに、相互関係を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 事例選定

上述の課題を検討するために、本論文では静岡市の公立中学校で部活動指導に従事する教員と外部指導者（以下、外部顧問）を対象に事例分析を行う。静岡市では2017年7月、全国に先駆けて部活動の活動日や活動時間を短縮する基準を「静岡市立中学校部活動ガイドライン」において示した。ただし、このガイドラインは単に練習時間を短くすることだけを求めるものではなく、効果的・効率的な技術指導ができる多様な外部人材との連携を図るための仕組み（研修およびライセンス制度等）についてもあわせて定めている。今回静岡市の事例を取り上げるのは、外部人材との連携による部活動の短時間化への対応がすでに進められており、取り組みにあたっての課題をいち早く把握できると考えたからである。

2. 調査方法

この分析のために調査によるデータ収集を行ったが、その概要は以下の通りである。

(1) 調査対象

運動部顧問：教員，外部顧問

(2) 被調査者の抽出方法

静岡市教育委員会の協力を得て、男女の比や年齢、指導分野が偏らないよう、以下の8名を抽出した。

- | | |
|-----------|-------------|
| ・静岡市中学校教員 | ・中学校部活動外部顧問 |
| A：50代男性 | E：50代男性 |
| B：40代男性 | F：60代男性 |
| C：40代女性 | G：70代男性 |
| D：30代女性 | H：50代男性 |

(3) 調査方法と内容

面接調査法（1対1の半構造化インタビューにより60分程度実施。被調査者の了解を得て、ICレコーダーを併用）。インタビューガイド（表1）の作成にあたっては、静岡市内の中学校保健体育科教員（男性40代）の予備インタビューをもとに、第一著者（保健体育科教育学）と第二著者（生涯学習・社会教育学）、第六著者（スポーツ心理学、臨床心理士）とのブレインストーミングによって作成された。

(4) 調査時期および面接場所

日時：2018年8月10日（金）13:00～14:30（教員），15:30～17:00（外部顧問）

場所：教員は勤務先，外部顧問は常葉大学静岡草薙キャンパス（静岡県静岡市）

表1 インタビュー・ガイドの内容

1. 部活動の意義について
2. 練習の計画について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動時間について，工夫点をお聞かせください。 ・ 教養日の設定について，工夫点をお聞かせください。 ・ 専門領域以外の指導計画について，工夫点をお聞かせください。（校内指導者（教員）のみ）
3. 役割について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内指導者（教員）に何を期待するのか，お聞かせください。 ・ 外部顧問に何を期待するのか，お聞かせください。 ・ 保護者に何を期待するのか，お聞かせください。
4. 短時間練習における課題と工夫点について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境面について，お聞かせください。（課題と工夫） ・ 指導者のネットワークについて，お聞かせください。（課題と工夫） ・ 技術面について，お聞かせください。（課題と工夫）
5. その他

3. 分析方法

データの分析は，グラウンデッド・セオリー・アプローチ（Grounded Theory Approach: 以下，GTA と記す）による検討を行った¹。GTA は質的データを体系的に分析するための手法のひとつであり²，帰納重視の分析による理論の生成を目的としている。理論の捉え方や分析手続きによっていくつかのヴァリエーションがあるが³，ここでは木下康仁が開発した修正版GTA(Modified Grounded Theory Approach: 以下，M-GTA と記す)により検討を行った。

M-GTA の特長は，(i) 分析ワークシート（表2）を用いて分析を行うため，分析プロセスが明示化されること，(ii) 分析結果を図で示し，現象の多様性と因果関係の複雑性を把握できること，などが挙げられる。

本研究のM-GTA の主な分析は，まず，録音されたインタビュー・データの逐語録から概念を生成し，次に生成した概念と概念との関係を関係図に示し，複数の概念からなるカテゴリーあるいはサブカテゴリーを生成した。そしてカテゴリー間の因果関係等を文章化（ストーリーライン）したのちに，結果を図解化する手順（木下，2003，pp.236-237）に沿って実施した。

¹ GTA については，木下康仁（2003）グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い，弘文堂，pp.236-237などを参照。
² 「グラウンデッド・セオリー」Gary R. VandenBos（原著），繁榊算男・四本裕子（翻訳）『APA 心理学大辞典』p.218
³ 能智正博「質的研究」（下山晴彦ほか編『誠信心理学辞典』新版，誠信書房，2014年），pp.47-48

表2 分析ワークシートの例

概念名	限られた時間 / 日程での調整 (11 事例)
定義	限られた時間や日程を調整し、練習をより効率的かつ効果的に展開できるような創意工夫。
ヴァリエーション (具体例)	<ul style="list-style-type: none"> • だらだら長時間やっても集中削いじゃうもんで。うん。極力短くって感じですね。給水明けにもう全員このポジションで、A のポジションからスタートみたいな感じで。[B 氏] • 今、短時間で短時間でっていうのが言われているなか、自分でどうやって短時間にしていくのか、(中略) たぶん1時間今の生徒は持たないんです。[F 氏] • 体育館が地域のバレーボール大会だったり、そういうのに結構貸し出されるので、使えない時があります。日曜日が多いです。そうするとその時は使えないので外に練習試合を探しに行ったりとか…。[D 氏] • 特に格技の場合は(練習が)長いことで逆に集中を削いたら怪我の原因にもなりますので。ここまでやったら終了という形は考えています。[B 氏] • 週末に普段練習してきたことを1時間くらい見ながら、できていないことを注意して、あとは週末は4時間くらいできるもんですから、そのときにチームとしてのまとめという形になるのだと思います。[H 氏] • やっぱもう時間が限られちゃってるから、やっぱ素早く行動してやるんですけども…。[G 氏] <p>(5 事例省略)</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> • 格技では、集団で揃ってやる時間を短めにするのが時間短縮のコツと述べている。しかし、球技はフォーメーションがあるので全員揃っていないとできないという現実にも触れている。[B 氏] • 限られた時間を効果的・効率的に活用するために、前半を基本練習に取り組み、後半をゲーム形式にするなど厳しいところと楽しいところの両方を取り入れていると述べている。メリハリをつけることで集中力を切らさないようにしていると読み取れる。[F 氏] • 外部顧問は、土日の指導が中心になっており、そのため専門的な技術指導を週末にあてることが多い。しかし、日曜日に体育館を地域へ貸し出すことも多く、練習場所を確保したいと述べている。[D 氏] <p>(以下省略)</p>

III 結果と考察

分析の結果、3つのカテゴリーおよびそれに含まれる8個のサブカテゴリー、18個の概念が生成された。カテゴリー、サブカテゴリー、概念のリスト、および代表的なヴァリエーションは表3に示す通りである。

1. カテゴリー、サブカテゴリー、概念の概要

各カテゴリーおよびそれに含まれるサブカテゴリーの概念の概要は以下の通りである。文中の【 】はカテゴリーを、[]はサブカテゴリーを、〈 〉は概念を示す。

2. 【[A] 短時間練習の工夫】の相互関係

【[A] 短時間練習の工夫】は、[充実した練習環境]と[時間の効果的運用]、そして[効果的・効率的な取り組み]の3つのサブカテゴリーから成り立っていた。[充実した練習環境]は、滞りなく練習が実施できる環境の良さを指し〈設備面の充足〉の概念が挙げられる。[時間の効果的運用]は、〈限られた時間 / 日程での練習〉の

工夫、部活動以外での練習を意味する〈時間外活動〉、待ち時間を補助トレーニングなどにあてることを指す〈無駄な待ち時間の削減〉の3つの概念が含まれる。[効果的・効率的な取り組み]は、指導に携わる側のコミュニケーションを指す〈指導者及び外部顧問ネットワーク〉、短期および中期的な練習計画を指す〈練習計画の工夫〉、成果を上げていくための指導者の取り組み例などを指す〈効果的練習の秘訣〉、現代の環境や生徒の実態に即した〈休憩・休息の取り方〉の4つの概念が含まれる。

サブカテゴリーの[時間の効果的運用]と[効果的・効率的な取り組み]の間には、一方が効果的な取り組みであるならば、他方も相乗的に効果的なものになるという、互いに密接な関係が見られた。【[A]短時間練習の工夫】においては、すでに与えられた環境の中で、いかに効率よく効果的に練習を行うかというところに重点が置かれる。

3. 【[B] 教員と外部顧問のやりとり】の相互関係

【[B] 教員と外部顧問のやりとり】は、[外部顧問の役割]と[教員の役割]から成り立っていた。[外部顧問の役割]は、当該種目の専門的な技術指導を指す〈外部顧問の技術指導〉と外部顧問が日ごろから心がけている取り組みを指す〈教員との兼ね合い〉の概念が含まれる。[教員の役割]では、教員の立ち位置や存在意義に言及した〈部活動における教員の存在〉と教員が日ごろから心がけている取り組みを指す〈外部顧問との兼ね合い〉の概念が含まれる。

【[B] 教員と外部顧問のやりとり】が円滑に行われると、【[A]短時間練習の工夫】も効果的に行うことができ、さらに【[B] 教員と外部顧問のやりとり】も密になるという良い循環(③)が生まれる。そして、【[B] 教員と外部顧問のやりとり】が円滑に行われることにより部活動そのものの質が向上するという流れが考えられた(①)。

4. 【[C] 部活動の質的向上】の相互関係

【[C] 部活動の質的向上】は、[各学校の目標設定]と[保護者への要望]、そして[生徒自身のデザイン力]から成り立っていた。[各学校の目標設定]は、練習の成果を存分に発揮し試合に勝つことを指す〈勝つことの意味〉、技術指導を受けたり、精神面の支えを受けたりすることを指す〈生徒の満足度の充足〉、ひとつのことをやりきる、やり通すといった〈部活継続の意義〉の概念が含まれる。[保護者への要望]は、部活動を円滑に進めるための配車等の役割を指す〈保護者の役割〉、当該種目の競技経験の保護者による練習支援を指す〈保護者の関わり〉の概念が含まれる。[生徒自身のデザイン力]は、教員や外部顧問が示した課題や練習内容をもとに自ら工夫して取り組む〈活動の自主性〉の概念が挙げられる。

【[C] 部活動の質的向上】で各学校にとって望ましい活動の質の向上が生じてくることにより、より良い【[A]短時間練習の工夫】がなされ、さらなる部活動の質の向上が期待できるという循環が生まれると推察された(①)。また、部活動の質が向上することにより、【[B] 教員と外部顧問のやりとり】も一段階質の上昇した状態でのやり取りが生じ(②)、その高まった段階での【[A]短時間練習の工夫】が考案さ

表3 生成されたカテゴリーと概念およびそれに対応する生徒の発言例

カテゴリー	サブカテゴリー	概念	定義	ヴァリエーション	ヴァリエーション数	理論的産出者数
短時間練習の工夫	限られた時間/日程での調整	練習をより効果的かつ効率的に展開させるための時間/日程の調整。	今、短時間で短時間でっていうのが言われているなか、自分でどうやって短時間にしていくのか、(中略) たぶん1時間今の生徒は持たないんです。[F氏]	11	6	5
	時間外活動	全体練習とは別に個々に休むや授業の効率的な練習等の取り組み。	時間が限られちゃってから、うちでもある程度自分勝手に工夫して休んでくつろいでいるのややらせるようにしてる、場合によってはお父さんやお母さんと走ったりとか…。[G氏]	3	3	3
効果的・効果的な工夫	無駄な待ち時間の削減	練習の効率を高めるための隙間時間や空き時間等の効果的運用。	ずっと体育館が使えるわけでもないで外の時間ととにかく走る。中に入ったらばっとボールを使ってるってやるとかって感じて、時間を無駄にしないようにやっています。[C氏]	6	6	4
	指導者及び外部顧問ネットワーク	練習場所や練習時間を調整するための情報共有。	5人の顧問が毎月、「じゃあこの日は使わせて」とか、この日はうちの練習試合に出るから使わせていいよという場合もあるんですよ。[B氏]	3	3	3
効果的・効果的な工夫	練習計画の工夫	練習計画の立案から個および全体への課題提示の方法。	平日に行ける日が週に2日程しかないものですから、メニューを2つ3つ考えて今回は試合が近いのでこのメニューをやってくたさないと、行けないときのことを考えて残してあります。[H氏]	12	8	6
	効果的練習の秘訣	教員および外部顧問が適宜取り組んでいる効果的な練習ポイント。	時間が許されない中で、つまり分解した部分のパーツを組み合わせるように後で組み合わせる、それでひとつにするような教え方を僕の中で変換している。[E氏]	8	7	5
充実した練習環境	休憩・休息の取り方	生徒および当該活動に即した休憩・休息の取り方の工夫や考え方。	試合があった翌日はとりあえずお休み。完全休養って感じですよ。[C氏]	7	7	4
	設備面の充実	当該部活動の活動基盤である設備、活動場所等の現状	うちの学校は恵まれています。体育館は女子バスケットと女子バレーしか使わないので。[H氏] うちの場合、男女ともに2面ありナイターもあるので(テニス)木場に履き替えています。[F氏]	6	4	4
外部顧問の役割	外部顧問の技術指導	当該種目の専門家である外部顧問の技術指導。	技術指導という外部顧問が積極的に入ってくださって、そこそこ保護者も望んでいるので大いに助けていたいただきたいっていうところですね。[C氏]	7	6	4
	教員との兼ね合い	外部顧問の教員に対する働きかけや日常のコミュニケーション。	出すきるのも礼かかと思えますので、そこは年の最初にこういうことに関してはやらせてもらいたいって助けていただくことを、お互い話しています。[H氏]	10	7	4
教員と外部顧問のやりとり	部活動における教員の存在	部活動にそして成果を高めるための教員の立ち位置。	専門はいいからとよりあらず安全面というか、こう全体的に、こう自然にできるように採配をして欲しいっていう子どもの中で意見があるかも知れない。親もそうかも知れない。[B氏]	4	4	3
	教員の役割	外部顧問との兼ね合い	外部顧問が練習に出てくださっているときは、私は見ながら「こういう練習をしているんだなあ」と引いて見えています。[D氏]	11	8	4
各学校の目標設定	勝つことの意味	運動部活動に取り組むことで経験する勝敗や結果について。	勝ちに向かって何か努力する。そのこと自体に意義があるかと考えています。ですから結果ではなくプロセスに意味があるんです。[B氏]	4	4	3
	生徒の満足度の充足	生徒が掲げた目標に近づくための支援や指導体制。	最終的には、子どもたちが掲げた目標みたいなのは達成させてあげたいという…。[C氏] 専門家がいると違うじゃないですか。子どもたちと外部顧問の距離は近いんです。[A氏]	4	4	3
部活動の質的向上	部活動継続の意義	運動部活動を最後まで続けることで期待していること	競技のスキルアップというよりも社会性というんですか。集団でやっていると。[A氏]	11	8	4
	保護者への要望	保護者の役割	練習試合とかで出て行くときの配車をお願いしたりとか…。[C氏]	5	4	4
生徒のチヤイン力	保護者の関わり	教員や外部顧問とのよい関係を保つための考え方。	OBの方、保護者の方と一緒に練習メニューを考えながらこういうものがあるんじゃないかとか言わないからやることは多かったと思います。[B氏]	3	3	3
	活動の自主性	自主的に自己の能力を高めようとする取組むことの重要性	強くなりたいたいって望むのは本人たちには良いことだと思います。[A氏]	5	5	2

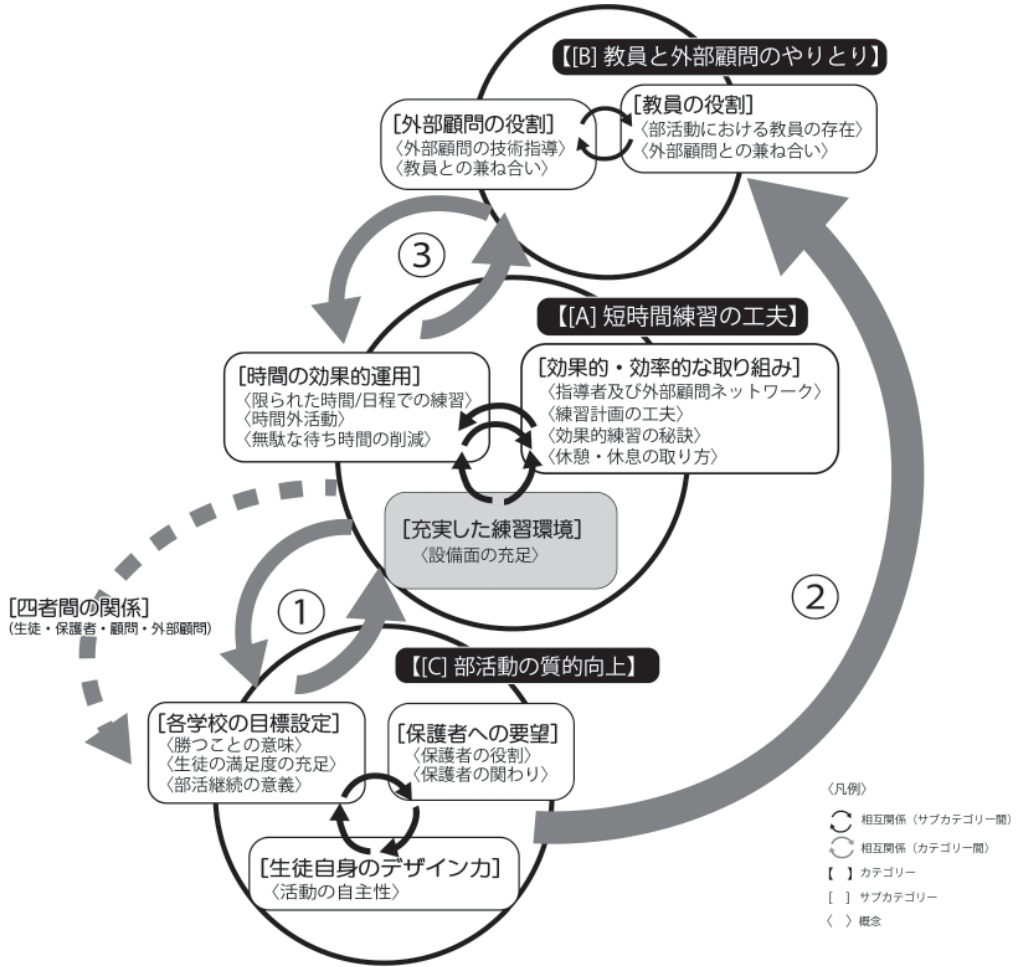


図2 生成されたカテゴリー，サブカテゴリー，概念の関係図

れる(③)という循環が生じるものと考えられた。

5. 予想される関係性

本研究では、ヴァリエーションとしての出現が認められなかったが、教員・外部顧問・生徒・保護者の四者間の関係が密であれば、【[C] 部活動の質的向上】はより高いものとなることが予想された。

IV 結論

本研究では、「中学校運動部活動の効果的指導の取り組みに関する研究：静岡市運動部活動顧問へのインタビュー調査をもとに(Ⅰ)」として以下のことが明らかになった。

- 1) 中学校運動部活動の効果的指導の取り組みを分析した結果、【[A] 短時間練習の工夫】【[B] 教員と外部顧問のやりとり】【[C] 部活動の質的向上】の3つのカテゴリーが生成された。
- 2) 中学校運動部活動の効果的指導として、【[A] 短時間練習の工夫】を試みることは、【[C] 部活動の質的向上】に関連し、また、部活動の質が向上することにより、役割を明確にした【[B] 教員と外部顧問のやりとり】につながり、その綿密な打ち合わせは更なる【[A] 短時間練習の工夫】を導き出すという循環があることが明らかになった。

2018(平成30)年2月に静岡市の部活動ガイドラインが示され、2019(平成31)年8月の全面実施に向けて準備が進められている。限られた時間をいかに有効活用していくのかを教員および外部顧問のインタビュー調査から検証した。そこでは、環境面の課題、練習時間の問題や課題、情報共有のできる人間関係の構築、生徒の意欲の引き出し、保護者との関係など、生徒の成長を支えるため支援や環境整備が重要であることが示唆された。また、当該種目の指導経験がなくとも、教員と外部顧問の連携を図り、指導体制を明確化させることが生徒の満足度の充足に関係するという結果が得られた。

最後に研究の限界に触れ、今後の研究の展望について述べておきたい。

本研究のモデル図に示されたカテゴリー、サブカテゴリー、概念の動きは領域の異なる研究者間のトライアングレーションにより相互関係を示したものである。各カテゴリーは、8名の類似のヴァリエーションから生成されたものであり、それ故、個人を特定したものではない。今後、個人的背景の詳細な分析を加えたり、対象者を増やして量的な検証を加えたりすることで、新たな知見が得られるものと考えられる。また、本研究では、語りのヴァリエーションからプラスの側面(うまくいっている)に着目し分析を試みたが、今後はマイナスの側面(うまくいっていない)の検証を加えていくことが必要であろう。

謝辞

本研究の実施にあたり、ご尽力いただきました静岡市教育委員会 木下指導主事、インタビュー調査に快くご協力を賜りました運動部活動顧問（教員4名、外部顧問4名）の皆様、この場を借りて深く感謝申し上げます。

付記

本論文は、2018（平成30）年度 常葉大学学内共同研究「部活動における外部顧問との連携に関する質的研究」（研究代表者：大矢隆二）の研究成果の一部である。

参考文献

- 青柳健隆・石井香織・柴田愛・荒井弘和・深町花子・岡浩一郎（2015）運動部活動での外部指導者活用推進に向けた組織の取り組み事例. 体育学研究, 60: 267-282.
- 「グラウンデッド・セオリー」 Gary R. VandenBos（原著）, 繁榊算男・四本裕子（翻訳）『APA 心理学大辞典』 p.218.
- 神谷拓・菊幸一（2015）体罰・暴力根絶に向けた運動部活動教育の内容と条件整備：教師の専門性と運動部活動指導の関係に着目して. 体育学研究, 60, R12- 1-R12_16.
- 木下康仁（2003）グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い. 弘文堂, pp.236-237.
- 的地修・竹村直樹・白井徹（2016）中学部活動における外部指導者の役割：現状と課題に対する一考察. 大阪成蹊大学紀要マネジメント学部篇第2号, 129-138.
- 文部科学省（2017）中学校学習指導要領. p.27.
- 文部科学省（2017）部活動指導の制度化について.
http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2017/10/30/1397204_006.pdf,（参照日 2018年8月10日）.
- 長澤岳大・松本奈緒（2017）中学校運動部活動指導に関する外部指導者の信念・指導内容・関係性の研究：その1 秋田県内を対象としたアンケート調査から. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門（72）123-134.
- 能智正博（2014）「質的研究」（下山晴彦ほか編『誠信心理学辞典』新版, 誠信書房, pp.47-48.
- 大矢隆二・百瀬容美子・山根悠介・柳本雄次（2017）投動作学習を通じた児童の心理的変容プロセス. 日本教科教育学会誌, 39（4）: 59-69.
- 静岡市教育委員会（2018）静岡市中学校部活動ガイドライン.
<http://www.city.shizuoka.jp/000770705.pdf>,（参照日 2018年3月10日）.
- スポーツ庁（2018）運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン.
http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624_1.pdf,（参照日 2018年8月10日）.
- 友添秀則 編著（2016）運動部活動の理論と実践. 大修館書店, p.2, p.39.